

第5・6学年 算数科学習指導案

【第5学年】

1. 単元名 7 比べ方を考えよう(1)(東京書籍一上 pp. 84～101)

2. 単元について

(1) 教材について

本単元では、「いくつかの数量があるとき、それらを同じ大きさの数量にならす」という平均の意味とその求め方、及び平均の考えを前提として単位量あたりの大きさについて理解し、用いることができるようにすることをねらいとしている。

これまでも、第3学年のわり算では、「同じ数ずつ分ける」といった等分除の操作をするなど、同じ大きさの数量にならす経験はしてきている。そこで、ここでは、その操作をさらに発展させて、個体差があったり分離量だったり実際にはならすことのできないものも、理想化して考え、均等化して数でとらえられるようにしていく。この「ならす」という平均の考えは、どこでも割合が同じとみることができるため、第2小単元の単位量あたりの大きさを考えていくための前提となっている。

第2小単元では、これまでに学習してきた長さや重さなどの量の他に、こみぐあいや収穫高のような異なった2つの量の割合としてとらえられる数量があることを知らせる。そして、その比べ方や表し方を理解し、用いることができるようにすることをねらいとしている。

こみぐあいのように、面積と人数という異なった2つの量の割合としてとらえられる量は、その1つの数量だけを取り出して比べることはできない。さらに、単位となる数量のいくつ分で数える測定の考えでも数値化できない。そこで、この異種の2つの量の割合としてとらえられる量を、どのようにして比べていくか、どのようにして数値化していくか、ということについて考えていくことになる。ここで、2つの数量のどちらか一方をそろえて、もう一方の量で比較する考えで解決していく。その際、公倍数の考えでそろえていくこともできるが、三者以上の比較での効率性やいつでも比べられるという一般性から、単位量あたりの大きさで比べるよさについて理解できるようにする。

単位量あたりの大きさでは、まず、混み具合の考察を通して単位量あたりの大きさについて理解する。その後、人口密度の意味を理解したり、様々な資料について、単位量あたりの大きさをういて比較したりする。これらの学習や、身の回りに単位量あたりの考えを用いたものがたくさんあることを見出す中で、その有用性を理解させるようにしたい。

(2) 児童について

5学年の児童2名は、数学的な考え方が比較的容易にできる児童1名と、数学的な考え方に支援を要する児童1名の2名である。レディネステスト(9月5日実施)では、前者が「ならす」という考えを用い、平均の値を求めることができていた。また、面積や数が異なる場合の比べ方も、既習事項の公倍数の考え方をういて考えようとしていた。後者については、出されている数値を足したりかけたりした計算の跡がみられた。また、既習事項の中に誤答が見られたので、再度一緒に問題に取り組み、理解させてから本単元に臨みたい。

児童は課題解決に向けて、何とかして今までの方法を用いて答えにたどり着こうとすることができる。また、お互いの求め方を尋ね合い、違うときはその方法を話し合う活動もできるようになってきている。しかし、2名は理解や定着に個人差があるので、授業の中では前者が自力解決で考えたことをもとに、後者が学び合いで理解していく、という形で学習を進めていきたい。

後者の学習の理解を確かなものにするために、日常生活の中から「ならす」や「こんでいる」といった場面を紹介し、時には実際に操作を加えながら、実際の体験や経験と結び付けて理解させていきたい。

(3) 指導にあたって

算数科のねらいと複式学級の実態を考慮し、以下に示す事項を指導に取り入れることにより、学習効果を高め、目標にせまりたい。

①単元のねらいにせまるために

- ・問題から課題解決の方法や答えの見通しを持たせ、立式の根拠として数直線をかいたり、既習事項を用いたりしながら、自分の考えを説明させていく活動を取り入れる。
- ・こみぐあいを比べる際、「一方をそろえ、他方で比べればよい」という考えを引き出すために、6学年の学習「速さ」を比べる時に用いた考えを5・6学年一緒に共有していく。

②複式学級のよさを生かし、効率よく学習を行うために

- ・同系統内容の指導を基本とし、6学年「8 速さの表し方を考えよう」と同じ時期に学習できるように、年間指導計画を調整する。
- ・1 単位時間の指導において、両学年の共通導入・共通終末の時間を確保し、学習内容の共通性や類似性を見抜く力を育てていきたい。
- ・間接指導時にも児童が自力で課題に取り組むことができるよう、1 単位時間の流れがわかる学習シートを活用していく。

3. 単元の目標

○平均の意味を理解し、それをを用いることができる。

○異種の2量の割合としてとらえられる数量について、比べることの意味や比べ方、表し方を理解し、それをを用いることができる。

《関心・意欲・態度》・平均で比べることのよさに気づき、生活や学習に生かそうとする。

- ・単位量あたりの大きさをを用いると、異種の2量の割合としてとらえられる数量を数値化して表せたり能率的に比べられたりすることのよさに気づき、生活や学習に生かそうとする。

《数学的な考え方》・測定場面などにおいて平均の意味をとらえ、妥当な数値として平均を用いることができる。

- ・異種の2量の割合としてとらえられる数量について、単位量あたりの大きさを比べることの有用性をとらえ、用いることができる。

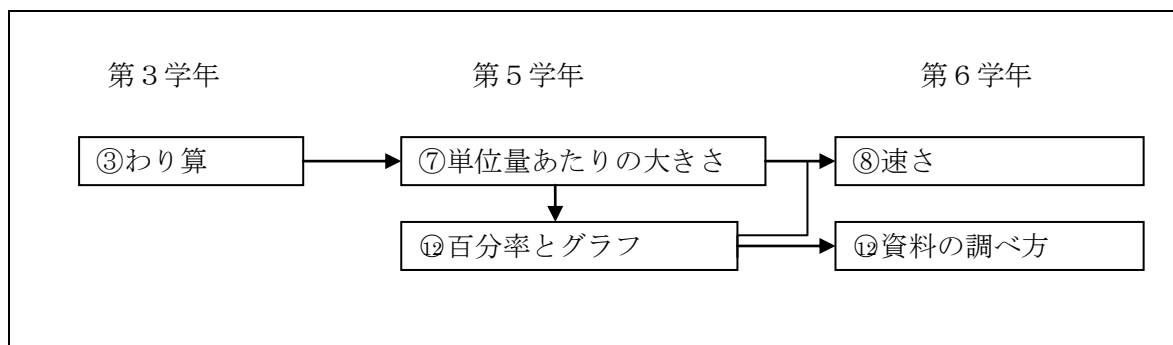
《技 能》・平均を計算で求めることができる。

- ・異種の2量の割合としてとらえられる数量を単位量あたりの大きさをを用いて比べることができる。

《知識・理解》・平均の意味や求め方について理解する。

- ・異種の2量の割合としてとらえられる数量を単位量あたりの大きさをを用いて比べることの意味や比べ方について理解する。

4. 本単元の学習の関連と発展



平成23年10月 6日(木) 5校時

児童 5年生 男1名 女1名 計2名

6年生 男1名 女4名 計5名

指導者 高橋 真弓

【第6学年】

1. 単元名 8 速さの表し方を考えよう (東京書籍—上 pp.82～93)

2. 単元について

(1) 教材について

本単元では、速さを比べるには単位量あたりの大きさの考えを用いることを学習する。異種の2量の割合で比べるという考え方については、第5学年「単位量あたりの大きさ」で学習してきている。こみぐあいや人口密度などを通して、「単位量あたりの大きさで比べる」という考え方を学習した。これを利用して、本単元においては速さについて学習していく。

速さは日常生活の中でもよく使っている言葉であり、児童は感覚的には易しいと感じていると思われる。しかし速さは、数量的に表して処理しようとする、難しい内容である。その難しさの理由は、異種の2量、すなわち時間と道のりを同時に考えなければならないところ、特に時間は目に見えないものであることである。速さをとらえるには、単位時間あたりどれだけの道のりを進むか、または、単位道のりあたりどれだけの時間がかかったかという考え方を要する。速さの指導では、児童一人ひとりが既習事項から考えて解決を目指し、よりよい解決方法はないかとみんなで話し合う中で、公式を導き出していきたい。

第5学年から学習してきた単位量あたりの大きさの考えと関連付けながら、実際の体験的な活動から、速さは何と何で決まるのかを意識させ、既習の単位量あたりの大きさの考えをより深く理解させていきたい。

速さの公式を学習した後、速さから道のりや時間を求める方法を考える。その際には、単位量あたりを意識させるために、数直線を利用して解決の手立てとしている。さらに、時間について単位変換をする際には、分数を活用することを学習する。また、速さが一定の時の時間と道のりの関係を比例関係としてとらえるために、文字式を利用したり、表を利用したりして、比例関係を理解する手立てとする。

このように、これまで学習してきた内容を活用しながら、速さと時間と道のりの関係をより深く理解できるようにさせたい。

(2) 児童について

6学年の児童5名は、提示された問題から課題を見つけ、意欲的に解決していこうと取り組むことができてきている。

レディネステスト(9月5日実施)では、既習事項の単位量あたりの大きさの問題において、1あたりの何を求めたのか理解しないまま、わり算をしている児童がみられた。また、わり算の小数の計算に誤答が見られたので、再度一緒に問題に取り組み、理解させてから本単元に臨みたい。

また、自力解決の場面では数名が解決までの間につまずくことが予想される。しかし、間接指導時に自分では解決までたどり着けなかったとしても、学び合いの場で考えを出し合い、より良い方法を探ったり、下学年の内容と比較したりしながら、進んで学習に取り組ませしていきたい。

学び合いの際、学習リーダーがみんなの考えを発表させ、似ている考えや方法を見つけていくようにさせていく。この学び合いの際、児童は「答えがあるかどうか」にのみ意識が向いている傾向があるので、考え方のよさについて気付いていけるような力をつけていきたい。

(3) 指導にあたって

算数科のねらいと複式学級の実態を考慮し、以下に示す事項を指導に取り入れることにより、学習効果を高め、目標にせまりたい。

①単元のねらいにせまるために

- ・児童にとって、速さを求めるために「単位量あたりの大きさ」の考えを使うことに直結することは、難しいと考えられる。そのため、5年生の内容と比較させ、類似点を確認する中で時間をそろえるとよいという考えに結び付けていきたい。

②複式学級のよさを生かし、効率よく学習を行うために

- ・同系統内容の指導を基本とし、5学年「7 比べ方を考えよう」と同じ時期に学習できるように、年間指導計画を調整する。
- ・1単位時間の指導において、両学年の共通導入・共通終末の時間を確保し、学習内容の共通性や類似性を見抜く力を育てていきたい。
- ・間接指導時にも児童が自力で課題に取り組むことができるよう、1単位時間の流れがわかる学習シートを活用する。
- ・学習シートは、図や式、計算手順が関連づけられるものとなるように内容を吟味しながら作成する。できるだけ板書とシートが対応するようにしたり、既習事項や系統性にも考えを広げて記述したりできるように指導を進めていきたい。

3. 単元の目標

○速さについて理解するとともに、求めることができるようにし、生活や学習に活用する能力を伸ばす。

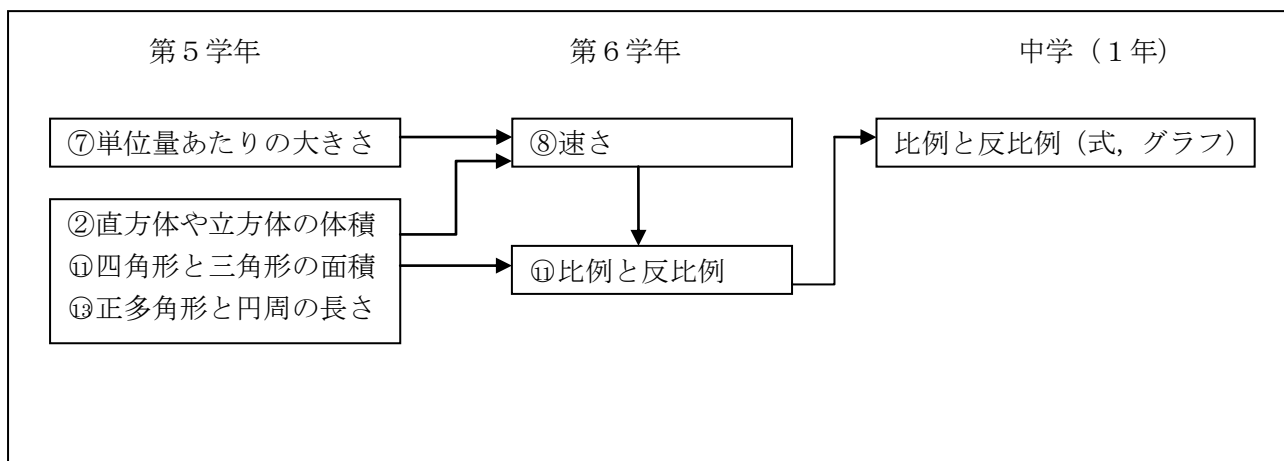
《関心・意欲・態度》 ・速さを単位量あたりの大きさの考え方をういて数値化したり、実際の場面と結びつけて生活や学習に用いたりしようとする。

《数学的な考え方》 ・速さの表し方や比べ方について、単位量あたりの大きさの考えを基に数直線や式を用いて考え、表現することができる。

《技能》 ・速さに関わる数量の関係において、速さや道のり、時間を求めることができる。

《知識・理解》 ・速さは単位量あたりの大きさを用いると表すことができることを理解する。

4. 本単元の学習の関連と発展



5. 指導計画及び評価計画

【第5学年】15時間

おもな評価規準	目標	時	
《プロローグ》 ・ p.84の3組の写真を見て、「ならず」ということの意味や経験について話し合う。		1	①平均 (6時間)
《関》平均を計算で求める方法を考えようとしている。 《技》平均を計算で求めることができる。	○「平均」の意味と求め方について理解する。	2	
《知》平均を求める目的に応じて0も含めて平均を求めることや、分離量の場合も平均の値を小数で表してよいことを理解している。	○値に0がある場合の平均の求め方や、分離量でも平均値は小数で表す場合があることを理解する。	3	
《考》平均の意味や数直線を基に、平均から全体の量を予測する方法を考え、説明している。 《技》平均から全体の量を求めることができる。	○平均から全量を求める方法を理解する。	4	
《関》学習内容を適切に活用して、活動に取り組もうとしている。	○算数的活動を通して学習内容の理解を深め、興味を広げる。	5	
《技》学習内容を適用して、問題を解決することができる。	○学習内容を適用して問題を解決する。	6	
《プロローグ》 ○p.92のイラストを見て、「こんでいる、すいている、かたまっている、ばらけている」ということの意味や経験について話し合う。		7	②単位量あたりの大きさ (6時間)
《関》こみぐあいは2量の割合としてとらえられる量であることに気づき、面積、匹数が異なる場合の混み具合の比べ方を考えようとしている。 《考》混み具合を比べる時に、単位量あたりの大きさを用いて比べるとよいことを考え、説明している。 《知》単位量あたりの大きさを用いて比べることの意味を理解している。	○面積、匹数が異なる場合の混み具合の比べ方を理解し、比べることができる。	8	
《技》人口密度を求めることができる。 《知》人口密度の意味を理解している。	○「人口密度」の意味とその求め方を理解する。	9	
《技》単位量あたりの大きさを用いて、2つの資料を比べることができる。	○単位量あたりの大きさを用いて、問題を解決できる。	10 本時	
《技》単位量あたりの大きさの考えを用いて、全体の量を求めることができる。 《知》これまでの乗除の場面も、単位量あたりの大きさが使われていることを理解している。	○既習の乗除の場面を単位量あたりの大きさの考えを適用して解決し、単位量あたりの大きさについて理解を深める。	11	
《関》学習内容を適切に活用して、活動に取り組もうとしている。	○算数的活動を通して、学習内容の理解を深め、興味を広げる。	12	
《技》学習内容を適用して問題を解決する。	○学習内容を適用して、問題を解決することができる。	13	③まとめ (3時間)
《知》基本的な学習内容を身につける。	○学習内容の定着を確認し、理解を確実にする。	14	
○【発展】巻末 p.126～127の「おもしろ問題にチャレンジ!」に取り組み、学習内容を基に平均や単位量あたりの考えについて理解を深める。		15	

5. 指導計画及び評価計画

【第6学年】12時間

内容	時	目標	おもな評価規準
① 速さ (9時間)	1	《プロローグ》 ○p.82のイラストのように、長さを決めたり、時間を決めたりして、歩く速さを変えて「速さ」を決める量を体験的にとらえる。	
	2	○距離と時間のどちらも異なる場合の速さの比べ方を考えることを通して、速さは単位量あたりの大きさの考えを用いて表せることを理解する。	《関》速さの比べ方を、単位量あたりの大きさの考えを用いて考えようとしている。 《考》単位量あたりの大きさの考えを基に、速さの比べ方を、式を用いて考え、説明している。
		3	○速さを変えて歩く時間や走る時間を測定する活動を通して、速さの表し方への興味を広げる。
	4	○速さを求める公式を理解し、それを適用して速さを求めることができる。 ○「時速」「分速」「秒速」の意味を理解する。	《技》速さの表し方を基に、速さを求める公式をつくり、速さを求めることができる。 《知》「時速」「分速」「秒速」の意味を理解している。
	5	○道のりを求める公式を理解し、それを適用して道のりを求めることができる。	《技》速さを求める公式を用いて、速さと時間から道のりを求める公式を導き、道のりを求めることができる。
	6	○速さと道のりから時間を求める方法について理解する。	《技》道のりを求める公式を用いて、速さと道のりから時間を求めることができる。
	7	○時間を分数で表して、速さの問題を解決することができる。	《技》時間を分数で表して、手ぎわよく問題を解決することができる。
	8	○速さが一定の時に、道のりと時間が比例の関係にあることを理解する。	《知》速さが一定ならば、道のりは時間に比例することを理解している。
	9 本時	○作業の速さも単位量あたりの大きさの考えを用いて比べられることを理解する。	《考》単位量あたりの大きさの考えを用いて、作業の速さなどの比べ方を考え、説明している。
② まとめ (3時間)	10	○学習内容を適用して問題を解決する。	《技》学習内容を適用して、問題を解決することができる。
	11	○学習内容の定着を確認し、理解を確実にする。	《知》基本的な学習内容を身につけている。
	12	○【発展】巻末p. 119の「おもしろ問題にチャレンジ!」に取り組み、学習内容を基に速さについて理解を深める。	

6. 本時の指導 【第5学年】

(1) 目標

○単位量あたりの大きさを用いて、問題を解決できる。

(2) 具体的評価規準

評価規準	十分満足できると判断する視点	努力を要する児童への対応・手だて
【技】単位量あたりの大きさを用いて、2つの資料を比べることができる。	1 a あたりにとれた米の重さで比べるとよいことに気づき、計算で答えを求め、考えを説明できる。	数直線を基にして指導者と一緒に立式し、その答えが1 a あたりの米の重さであることを理解させる。

(3) 5年生 板書計画

〈問題〉

右の表は、同じ種類の米をつくるAとBの面積ととれた米の重さを表したものです。
米がよくとれたといえるのは、A、B、どちらの田ですか。

	面積 (a)	とれた重さ (kg)
A	11	570
B	14	680

〈課題〉

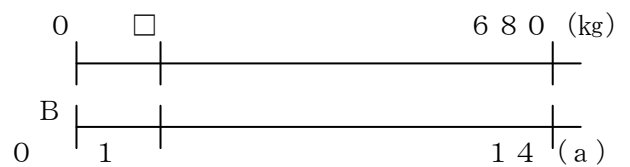
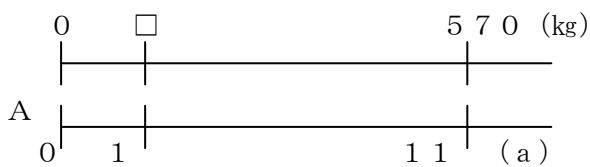
米のとれぐあいの比べ方を考えよう。

〈見通し〉1あたりの量で比べる (1 a あたり・1 kg あたり)

→人口密度の時は面積あたりの人口で比べたから・・・⇒1 a あたりで比べるとよさそう

〈数直線〉

○1 a あたりにとれた米の重さを数直線に表すと・・・



〈自力解決〉

○1 a あたりにとれた米の重さで比べる。

A. $570 \div 11 = 51.8 \dots$ 約52 kg

B. $680 \div 14 = 48.5 \dots$ 約49 kg

A. Aの田がよく米がとれた。

○1 kgあたりの面積で比べる。

A. $11 \div 570 = 0.019 \dots$ 約0.019 a

B. $14 \div 680 = 0.020 \dots$ 約0.02 a

A. Aの田がよく米がとれた。

〈まとめ〉

作物のとれぐあいも、単位量あたりの大きさを使って考えると比べることができます。

〈練習〉

①1ダースで600円のえん筆と、10本で450円のえん筆では、1本あたりのねだんはどちらが高いでしょうか。

$600 \div 12 = 50$ (円)

$450 \div 10 = 45$ (円)

A. 1ダース600円のえん筆

6. 本時の指導 【第6学年】

(1) 目標

○作業の速さも単位量あたりの大きさの考えを用いて比べられることを理解する。

(2) 具体的評価規準

評価規準	十分満足できると判断する視点	努力を要する児童への対応・手だて
【考】単位量あたりの大きさの考えを用いて、作業の速さなどの比べ方を考え、説明している。	作業の速さも1あたりの量で比べられることに気づき、1分あたりに印刷できる枚数で比べ、考えを説明できる。	1分あたりに印刷できる量で比べればよいことに気づかせ、式にまとめさせていく。

(3) 6年生 板書計画

〈問題〉

A, B 2つのプリンターがあります。たてが89mm, 横が127mmのカラー写真を, Aのプリンターは1時間に90枚, Bのプリンターは12分で20枚印刷することができます。
速く印刷できるのは, どちらのプリンターですか。

	時間	枚数
A	1時間	90
B	12分	20

〈課題〉

作業の速さの比べ方を考えよう。

〈見通し〉写真のサイズは計算では使わない。

今日の速さは⇒「作業」「仕事」の速さ
1あたりの量で比べる

(1分あたり・1時間あたり・1枚あたり)

〈まとめ〉

作業をする速さも, 単位量あたりの大き
さで考えると比べることができます。

〈自力解決〉

ア, 1分あたりの枚数で比べる
A $90 \div 60 = 1.5$
B $20 \div 12 = 1.66 \dots$
A. Bの方が速い

イ, 1時間当たりの枚数で比べる
A 1時間に90枚
B 12分を5倍すれば60分=1時間
 $20 \times 5 = 100$
1時間に100枚
A. Bの方が速い

ウ, 1枚あたりの時間で比べる。
A $60 \div 90 = 0.66 \dots$
B $12 \div 20 = 0.6$
A. Bの方が速い

〈練習〉 A, B 2つの自動車工場があります。A工場は1時間で62台生産し, B工場は5分で6台生産します。自動車を生産する速さは, どちらの工場が速いでしょうか。

A $62 \div 60 = 1.03 \dots$

B $6 \div 5 = 1.2$

A. B工場が速い

(4) 展開 【第5学年】

段階	指導上の留意点及び評価と手だて ☐ 系統性に気づき、共に学び合う意識を持たせる工夫	学習内容・活動	形態
つかむ	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>* 6年生の問題と似ているところを確認する。</p> <p>* 6年生と一緒に見通しを持つことで、共通性があることに気づかせる。</p> </div> <p>* 今までの問題と共通点を考え、「人口密度」の際の既習事項が使えることに気づかせる。</p>	<p>1. 問題を読み、題意をとらえる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>右の表は、同じ種類の米をつくるAとBの面積ととれた米の重さを表したものです。米がよくとれたといえるのは、どちらの田ですか。</p> </div> <p>2. 課題をつかむ。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>米のとれぐあいの比べ方を考えよう。</p> </div> <p>3. 見通しを持つ。</p> <p>○ 単位量あたりの大きさを使って比べる。</p> <p style="text-align: center;">・ 1 a あたり ・ 1 kg あたり</p>	直接 5分
やってみる	<p>* 解決の見通しが見つからない児童には、前時の学習から 1 a あたりの重さの方が比べやすいことに気づかせ、数直線から式を立てさせていく。</p> <p>* 解決できたら、自分の考えをより分かりやすく説明するために、学習シートにことばで順序良く説明を書いておくよう指示する。</p> <p>【技】 単位量あたりの大きさを用いて2つの資料を比べることができる。</p>	<p>4. 自力解決をする。</p> <p>○ 1 a あたりの重さで比べる。</p> <p style="margin-left: 20px;">A: $570 \div 11 = 51.8 \dots$</p> <p style="margin-left: 20px;">B: $680 \div 14 = 48.5 \dots$</p> <p style="margin-left: 40px;"><u>A. 1 a あたりが重いので A の方がよくとれた</u></p> <p>○ 1 kg あたりの面積で比べる。</p> <p style="margin-left: 20px;">A: $11 \div 570 = 0.019 \dots$</p> <p style="margin-left: 20px;">B: $14 \div 680 = 0.020 \dots$</p> <p style="margin-left: 40px;"><u>A. 1 kg あたりの面積がせまいので A の方がよくとれた</u></p>	直接 10分
たしかめる	<p>* お互いの考えや説明の仕方のよさを認め合わせたうえで、まとめにつなげる。</p>	<p>5. 考えを発表し、学びあう。</p> <p>○ 1 a あたりで比べるよさは・・・</p> <p style="margin-left: 40px;">⇒ 多い方がそのまま答えになる。</p> <p>○ 今までは「こみぐあい」だったが、「作物のとれぐあい」も単位量あたりの大きさを比べられる。</p>	直接 5分
まとめる	<p>* 前時で学習した「単位面積あたり」の考え方をを使うとよいことに再度ふれる。</p>	<p>6. まとめる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>作物のとれぐあいも、単位量あたりの大きさを使って考えると比べることができます。</p> </div>	直接 10分
みにつける	<p>* 終わったらチャレンジ問題に取り組ませる。</p> <p>* できるだけ自分たちで確かめができるように、答えを用意しておく。</p> <p>* 言葉での説明も記述させる。</p>	<p>7. 適用問題を解く。</p> <p>① 1 ダースで 600 円のえん筆と、10 本で 450 円のえん筆では、1 本あたりのねだんはどちらが高いでしょうか。</p> <p style="margin-left: 20px;">$600 \div 12 = 50$ (円)</p> <p style="margin-left: 20px;">$450 \div 10 = 45$ (円) <u>A. 1 ダース 600 円のえん筆</u></p>	間接 10分
ふりかえる	<p>* 本時の学習をふり振り返りながら、分かったことや感想、友だちの考えのよさ等を記述し、発表させる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>* 6年生の学習にも目を向け、共通点を見つけさせる。</p> </div>	<p>8. ふりかえる。</p> <p>○ 本時の学習について、自己評価と相互評価をする。</p> <p>○ 6年生に今日の学習内容を知らせる。</p>	直接 5分

(4) 展開 【第6学年】

形態	学習内容・活動	指導上の留意点及び評価と手だて ☐ 系統性に気づき、共に学び合う意識を持たせる工夫	段階
直接 5分	1. 問題を読み、題意をとらえる。 A, B, 2つのプリンターがあります。たてが89mm, 横が127mmのカラー写真を, Aのプリンターは1時間に90枚, Bのプリンターは12分で20枚印刷することができます。速く印刷できるのは, どちらのプリンターですか。 2. 課題をつかむ。 作業の速さの比べ方を考えよう。 3. 見通しを持つ。 ・1分あたりで比べる。・1時間あたりで比べる。 ・1枚あたりで比べる。	* 5年生の問題と似ているところを確認する。 * 見通しが5年生と共通であることを確認する。 * 問題文の数値の確認をする。(縦, 横のサイズは使わない。) * 自力解決に入る前に, どちらの方法なら自分でできそうか選択させる。	つかむ
間接 10分	4. 自力解決をする。 ア, 1分あたりに印刷できる枚数で比べる。 A $90 \div 60 = 1.5$ B $20 \div 12 = 1.66 \dots$ <u>A, Bの方が速い</u> イ, 1時間あたりに印刷できる枚数で比べる。 A 1時間に90枚 B 12分を5倍すれば60分=1時間 $20 \times 5 = 100$ <u>A, 1時間に100枚だからBが速い</u> ウ, 1枚あたりの時間で比べる。 A $60 \div 90 = 0.66 \dots$ B $12 \div 20 = 0.6$ <u>A, Bの方が速い</u>	* 自分なりの考えで取り組ませる。その際, 自分が今何を求めているのかを考えながら計算していくよう指示する。 * 一つの方法で解決できたら, 言葉で記述させ, 分かりやすい説明につなげていく。 * 自力解決が終わったら学び合いの準備をしておく。	やってみる
間接 5分	5. 考えを発表し、学びあう。 ○1分あたりでも, 1時間あたりでも, 1枚あたりでも, そろえれば比べられる。 ○1時間あたりにそろえると, 計算は一つで済む。	* どの方法も, 時間や枚数をそろえていることを確認し, この方法がいつでも使えて簡単であることをおさえる。	たしかめる
直接 10分	6. まとめる。 作業をする速さも, 単位量あたりの大きさを使って考えると比べることができます。	【考】単位量あたりの大きさの考えを用いて, 作業の速さなどの比べ方を考え, 説明している。	まとめる
直接 10分	7. 適用問題を解く。 ⑦ A, B 2つの自動車工場があります。A工場は1時間で62台生産し, B工場は5分で6台生産します。自動車を生産する速さはどちらの工場が速いでしょうか。 ○1分あたりで比べると A $62 \div 60 = 1.03 \dots$ B $6 \div 5 = 1.2$ <u>A, B工場が速い</u>	* 時間あたりで比べたほうが簡単であることに気づかせ, 取り組ませてみる。 * 自分で答え合わせができるような形をとる。 * 1時間あたりや1台あたりで考えた児童も紹介し, 時間や台数をそろえれば比べられることを再確認する。	みにつける
直接 5分	8. ふりかえる。 ○本時の学習について, 自己評価と相互評価をする。 ○5年生に今日の学習内容を知らせる。	* 本時の学習をふり返り, 分かったことや友だちの考えのよさ等を記述し, 発表させる。 * 5年生の学習の考え方との共通点を再確認する。	ふりかえる